



①ボーイスカウト講習会(鳥田会場)



②お宅訪問(脇坂宅)



③赤沢塾



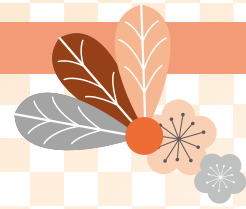
④三保の松原探検と松原清掃

今年は、少年団静岡県連盟結成100周年

CONTENTS

年頭のご挨拶…………… 2	カブつうしん…………… 10
静岡県連盟 連盟長 川勝平太氏	ボーイ通信…………… 11
静岡県連盟 理事長 村松武博氏	指導者だより…………… 11
オールドスカウトの赤沢塾を終えて…………… 4	島田地区 講習会・清水地区 自然体験…………… 13
三保の松原探検と松葉清掃…………… 5	何とか70周年 静岡第7団…………… 14
清水地区「秋のキャンプ」…………… 6	友情章おめでとう17名の仲間…………… 14
静岡地区「楽しかったキャンプ」…………… 7	マスコミコーナー…………… 15
お宅訪問「清水地区 第19団 脇坂 茂宅」…………… 8	お知らせコーナー…………… 16
第8回 若き指導者	・講習会開催のお知らせ
浜松第30団 カブ隊 隊長 鈴木 奈津子…………… 9	
いつも元気だっ!ビーバーだより…………… 10	

年頭所感



一般社団法人
日本ボーイスカウト静岡県連盟 連盟長

川勝平太

明けましておめでとうございます。

日本ボーイスカウト静岡県連盟の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、様々なボーイスカウト運動が中止や延期を余儀なくされるなど、大きな影響を受けました。

そのような中であっても、世界のスカウト関係者の皆様は「Scouting Never Stops」を合言葉に活動を続けられました。日本でも「今できること、おうちスカウティング」などの工夫を凝らした活動が展開されたことにより、スカウト運動もスカウト同士の絆も途切れることなくつながりを保ち、実践されました。

ボーイスカウト運動の尊さを改めて実感する年となりましたことは、皆様の多大なる御努力の賜物であり、改めて感謝を申し上げます。

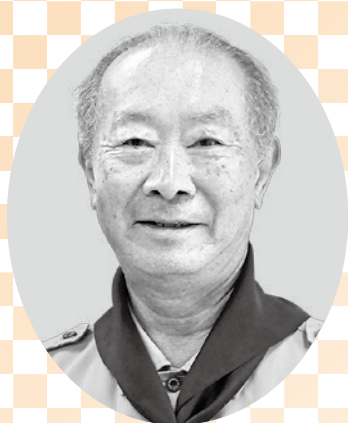
本年、静岡県連盟は結成100周年を迎えます。全国大会や記念式典、記念レセプションなど、様々な行事を予定しています。次の100年に向けた新たなスタートにふさわしい、実りある一年となることを祈念いたします。

本県は、「富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくり」を県政運営の基本理念に掲げ、高い志を持って社会に貢献できる「有徳の人」の育成に向けて「才徳兼備」の人づくりに取り組み、地域ぐるみ、社会総がかりの子育てや教育を推進しています。「地域社会の発展に貢献するスカウト運動の推進」をスローガンとする静岡県連盟の活動は、本県の基本理念と方向を同じくするものです。

今後とも、静岡県連盟のボーイスカウト運動を通じて、本県の青少年健全育成の取組推進にお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げ、年頭の御挨拶といたします。

年頭所感



一般社団法人
日本ボーイスカウト静岡県連盟 理事長

村松 武博

あけましておめでとうございます。

さあ、新しい年が明けました。

昨年は、新型コロナウイルスの嵐が吹き荒れ、オリンピック、パラリンピック、日本アグーナリー、第3回東海4県連盟合同野営大会など、いろいろな行事が中止や延期となりました。

各隊の活動もなかなか思うように展開できなかったことと思います。

おうちスカウティングやオンラインでの会議など、今までになかった方法で活動を続けていただきましたが、やはり、一日も早くみんなが集まって、にぎやかに集会を開ける日が来ることを願います。

さて今年、少年団静岡県連盟結成100周年に当たります。日本連盟より1年前に結成された日本で最初の連盟です。

この100年の間に、ボーイスカウト運動に対するいろいろな困難もあったことでしょう。

でも、100年も続けてこられたのはなぜでしょうか。

ボーイスカウト運動が、青少年を良き社会人として育てる人格形成の場であること、そして、それは世界平和につながるものであることを社会が認めてくれているからではないでしょうか。

そして、何より、活動しているスカウトたち、指導者たち、保護者の皆さん、みんながこの運動にかかわることが楽しいからではないでしょうか。

これからも、スカウトの活動をもっともっと楽しみましょう。

みんなが楽しく活動することが、ボーイスカウト運動を未来へつなげていく方法だと思います。

100周年を記念して、県内東中西部それぞれのブロックでスカウトのイベントを計画しています。

記念誌、記念切手の発行、5月に熱海市で開催される全国大会に合わせた記念セレモニー、11月の記念表彰式、レセプションも計画されています。

それぞれのイベントについて、皆様のご協力をお願いいたします。

今年もスカウトの活動を楽しみましょう。



『オールドスカウトの赤沢塾』を終えて

日時：10月25日(日)

場所：静岡市 元赤沢道場跡地
赤沢クラブ 海野登光

私たち「静岡赤沢クラブ」は2012年に、静岡のスカウトOBの集まりとして発足しました。

隔月に一度の例会、発足当初は居酒屋での会食が中心でした。会を重ねるにつれ尾崎忠次先達の歌を歌うようになり、過去の資料をまとめようということになり、『赤沢十話』の発行、元赤沢道場記念碑の建立と進み、ボーイスカウト静岡県連盟100周年を目前に「オールドスカウトの赤沢塾」の実施となりました。ここまでの活動を支えたのは、ボーイスカウトの歴史「情熱」でした。そして日本のボーイスカウト発祥の地とまでこぎ着けたキーワードが『赤沢道場』だったのです。林晴二氏(故)がまとめた『赤沢十話』によれば大正7年(1918)赤沢山野営場として開放され、少年団指導者養成所が開かれ、昭和4年(1929年)から昭和15年(1940年)まで毎年のように実習所も開かれ全国からの指導者400名を輩出しました。また団の野営訓練、静岡県野営大会、静岡地区野営訓練なども開催されました。

今回のイベントは、現在のそして未来のスカウト達に伝え継がなければという想いで企画した『赤沢塾』でした。当日は晴天に恵まれ、スカウト36名、父兄・指導者26名、主催者24名の参加を得て無事に開催できました。ロープ結び、火起こし、尾崎忠次ソング、野外工作4部門の塾を行い、ぶらぶら沢跡で「ぶらぶら沢」を参加者全員で歌い閉会式。「務め果たし」爽やかな気持ちで家路につきました。



④ ぶらぶら沢にて



④ 赤沢山到着



④ ぶらぶら沢を歌おう!



④ 火起こし



④ ロープワーク

※「赤沢塾」での活動の様子はSBSの番組「元気!しずおか人」(11月15日)で放送されました。放送された動画は県連Facebookに投稿されていますので、是非ご覧ください。

三保の松原探検と松葉清掃

日:令和2年10月4日(日) 静岡第27団



静岡第27団 カブ隊 高野 清正

ぼくの団、静岡第27団は、10月4日に三保松原に行き、清掃活動をしました。そこで、体験の子といっしょに活動したのですが、やはり組長の立場で、体験の子、さらに組員の世話となると大変でした。しかし、それがまた良い経験になったので良かったです。また、遊びも「松原清掃」につながる事をしました。具体的には、各組に色紙を分け、三保松原に落ちているゴミ等を集め色を合わせる。それだけで20以上のゴミを無くすことができました。清掃活動でも、200Kg以上の松葉を集めることができました。良かったです。



静岡第27団 副団委員長 南條 順子

毎年恒例の団行事「三保の松原・松葉清掃」を、今年は“ワクワク自然体験”活動として実施しました。駿河区南部の幼稚園・小学校にチラシを配ったら申込が殺到し、こども19人、保護者18人計37人の希望者が集まりました。当日は、BVS・CS・体験者は静岡駅からJRとバスで三保に移動。BSは自転車で18kmを走り三保へ集合。

第27団の団行事は、BVSからVSを均等に4グループに編成した「縦割り班」で行うのが特長。今回は、そこに体験者も割り振った「拡大縦割り班」で集めた松葉の量を競い合いました。保護者やリーダーも別のグループを作り、清掃作業スタート!

スカウト35人、リーダー/保護者26人、体験者親子37人、総勢97人が約1時間で集めた松葉のゴミ袋はなんと「156袋」。全員で集積所までゴミ袋を運び作業は終了。清掃用具を貸してくれた「みほるべ」の職員さんからも、“こどもが大半なのに、集めた量がすごい”とお褒めの言葉を頂き、さわやかな汗の1日になりました。

清水地区「秋のキャンプ」

清水第 17 団・第 19 団・興津第 1 団



音がしたかを覚えていくのがむずかしくてたいへんだったからです。でも、みんなとなんの音か相談したり、暗い山道を歩いたりしてゴールのところの明かりがとても明るかったです。次は、朝ざりがいいです。理由はスケートがしたいからです。

清水第 17 団 カブ隊 隊長 鍋田 匠

実家のアルバムを漁っていたら、25年前の写真が出てきた。当時の自分は、こうやって当時在籍していたカブ隊の隊長をやっていたかと想像していただろうか。

25年経っても、「楽しい」という思いがあったから今もこうして活動を続けているのではないかと考えている。

大変さや困難さも全てが「楽しい」につながって行く。当時活動の先に感じた「楽しい」という思いを、自分なりに活動を通じてのなかで伝え続けていきたい。

清水第 19 団 カブ隊 隊長 藤田 めぐみ

日時: 9月19日～21日 場所: 三島市箱根の里

コロナ禍の中、今年もスカウト達が楽しみにしている秋季舎営を行いました。実施するにあたり、感染対策に万全をきすため例年以上に配慮する点が多くありましたが、スカウトが満足することが指導者である私達の喜びなので、全てにおいて抜かりなく準備をしました。

今回の舎営は、清水第 19 団、清水第 17 団、興津第 1 団の 3 隊で行いましたが、どの組もデンリーダーが良い働きをしてくださり、スカウトや保護者の皆さんから満足だとのお声をいただきました。カブスカウト隊の活動はデンリーダーなしではありえません。

今後も副長とデンリーダーと良い関係を保ちながら、より一層楽しいプログラムを展開させていきたいと考えています。



清水第 17 団 カブ隊 松倉きょうすけ

ぼくは、9月19日から21日まで2泊3日の宿はく訓練をしました。場所は三島市の箱根の里でした。

色々な行事をしたけれど、一番心に残ったのは、一日目のナイトハイキングです。なぜかという

と、ろうそくの火が消えないように歩きながらどんな音がしたかを覚えていくのがむずかしくてたいへんだったからです。でも、みんなとなんの音か相談したり、暗い山道を歩いたりしてゴールのところの明かりがとても明るかったです。次は、朝ざりがいいです。理由はスケートがしたいからです。

興津第 1 団 カブ隊 月見里彩乃

9月19日から2泊3日で三島の『箱根の里』にキャンプに行きました。今年はコロナ禍での開さいですが、清水 19 団と清水 17 団との合同で行かせていただく事ができてとてもうれしかったです。

キャンプではナイトウォークハイキングなど、いろいろなプログラムがありました。どのプログラムも仲間と協力してやりとげることができ、キャンプは成功したと思います。なかでも一番楽しかったのはハイキングです。ハイキングでは自分の体を使っておおよその長さをはかったり、なわの結び方を教えてもらったり、きおく力問題をやったり、体験して学んだことがたくさんありました。坂道が多く、きよりも長かったのでとても大変だったけれど、最後まであきらめずに歩くことができました。ゆうしよう組みももらうことができたのも、がんばってよかったなと思います。キャンプを通して少しは成長できたと思います。また次のキャンプが楽しみです。



スカウト達にワクワクドキドキを

静岡第14回 場所:富士山こどもの国 日時:10月20日~21日

静岡第14回 カブ隊隊長 徳澄 大輔

適度に自然と人工物が混在する富士山こどもの国は、敷地も広く、パオで宿泊し、草原を活用したゲーム、暗闇の1本道トレイルを使ったナイトゲーム、メインイベントのワイドゲームを含むハイキングなど、カブキャンプに多様なプログラムを盛り込むには最適です。

2日目のハイキングでは、チェックポイントとそこで待ち受ける変装した保護者とデンコーチのボーイとベンチャースカウト、そしてまさかのハンター登場…。数々の関門(スカウトスキルに挑戦)を通過して、ラストに大どんでん返しありのストーリー仕立てのハイキングは、スカウトだけではなく保護者や指導者も笑顔いっぱいプログラムとなりました(〇〇君のパパだぁ、とは言いつつもシナリオにノってくれるのがカブ年代の可愛いところ)。スカウトが自ら握ったおにぎりの昼食も雨の合間を縫って屋外で美味しく頂くこともできました。

キャンプファイアでは、火の神天狗様のサプライズ登場あり、練習を重ねたスカウト達の素晴らしいスタンツあり。保護者も指導者も負けじと大いに盛り上がり、隊の一体感を味わえたひと時でした。歌、ローワーク、集団での行動など、普段少しずつ訓練しているスカウトスキルをゲーム形式でシナリオ仕立てにすることで、スカウトにはとても印象深く、思い出に残るような2泊3日のキャンプが出来ました。今後もスカウト達がワクワクドキドキするような活動を目指し、計画、実践していきます。三指。

静岡第14回 カブ隊 里 美緒莉

わたしが一番楽しかったのは、ハイキングです。暗号をといたり、迷路をしたり、と中ハンターにおそわれたり、道を行ったり来たりして時間がかかりましたが変そうした保ご者や先ばい達が楽しませてくれました。あと、外で自分たちが作った野菜いためはとてもおいしかったです。組長として初めてのキャンプなので、男の子達に指示をしたり、まとめるのが大変でしたが、いい思い出になりました。

静岡第14回 カブ隊 田中 玲早

初日は草原の国のゲームに始まり、2日目は草原の国、雪の丘、水の国でアリエルをつれてのハイキングでした。ゲームの後はカヌーに乗りました。友達といっしょにのれてとても楽しかったです。自分たちで作った昼食のおにぎり、夕食の野菜いためもとてもおいしくてぜっ品でした。キャンプファイヤーでスタンツもうまく出来て、すごうれしかったです。



お宅訪問

人を育てる、人と関わり合って成長

静岡県連副理事長 脇坂 茂
清水第19団



◆今回は清水19団、静岡県連副理事長の脇坂さんのお宅に訪問しました。

「私は妻と昭和40年代からずっと劇団活動をやっておりました。息子がボーイスカウトに入隊した縁で団委員に誘われました。人を育てる、人と関わり合って成長させていくことは劇団の演出家の役割とも通じ、現在に至っております。」

「その後カブリーダーの道を歩むとともに同時に先輩たちの動きも見てきました。静岡は全国で一番先につくられた組織だというプライドから、研修や訓練の伝統を守って来ました。しかし人財の再生産は上手くありません。それにはボーイスカウトは個人のものという思いがあるのでは？技術・知識・技能と、自分で得たものを広めるという考えが指導者、それも上級の指導者に足りないのではないかと思います。」

「指導者についてアジアでも韓国とか台湾のリーダーは一般に尊敬されているように思います。当地ではボーイスカウト活動は学校をベースで育ってきました。事実、隊の指導者とか団委員長はもともと先生だった時代がありました。またアメリカでは指導者はその道のプロフェッショナルがいます。2000年、元の清水市がアメリカのストックトンと友好都市関係40年の節目に派遣が実現しました。すると現地いきなりカルフォルニアのサマーキャンプに放り込まれました。2泊3日、子供たちも日本語が通じない。しかしバンガロー、我々も戸建ての個室をもらい、食べるものも驚きの連続。キャンプチーフはプロフェッショナル。20年前のことですがアメリカのシステムは日本と大分違うな、とそのとき実感しました。」

「ボーイスカウトに嵌まったきっかけは皆同じ、カッコ良い子がいたからです。ボーイスカウトが伸びていくためには人気者でカッコ良い、地域の子供の中心となるスカウトを育てていかなければいけません。育てても大学生生活から外へ出てしまっても戻ってこないのも現実ですが、今回コロナをきっかけに県外にいてもリモートで繋がることを学びました。そうすると、外に出てもいつか帰ってきてもらえる環境や土壌づくりが我々の仕事と言えます。スカウトの数が少ないと経費も大変ですが、数よりも質だと思います。質の良いスカウトを育て、その子たちが社会に出て『認められる』という時代から『必要とされる』時代になっていかなければと思います。」

「良き社会人を育てるのが我々のミッションです。人材育成という目線、もう一つは人材を揃えるリソース、もう一つは女性。県連では女性、若い人が活躍できる組織に変えなければ！それくらい魅力のある組織にしなければ！」

脇坂さんは熱く語りました。



① 数々の思い出



② 垂涎の世界ジャンボリー記章



③ 21WSJで表敬訪問したプリストール市長

第8回「若き指導者」



浜松第30団 カブ隊隊長
鈴木奈津子



自分は、元スカウトでもなく、ボースカウトに憧れていたわけでもなく、きっかけは突然でした。サッカーや野球等体を動かすより、木の実を拾ったり、生き物を捕ったりすることが好きな息子にスカウト活動が合うのでは？と、ドタサン！（ドタンバ参加）で浜松30団ビーバー隊に見学に行きました。突然にも関わらず、温かく迎え入れてくれた当初のビーバー隊隊長、そしてたまたま一緒に参加していた組拵委員長！今思うと、出会いは奇跡という必然だったかもしれません。活動日は常に息子と娘と三人で活動に参加し、自分が今まで経験したことない活動がとても新鮮でした。上進するごとに素敵な指導者と出会い、親でもなく、学校の先生でもない沢山の大人に関わってもらうことで、人としてのコミュニケーションの取り方を身に付けていき、また、素敵な仲間との出会い、年下スカウトを労わる気持ち、目上のスカウトへの憧れ、パトローリングシステムが自然と身に付き、本当に感謝しかありません。また私自身も、自分と考え方や価値観が一緒の人との出会いに面白さを感じ、自分の考えたプログラムをスカウトが楽しく活動してくれることに、自分自身への自信に変えていくことができました。この秋、スカウトコースに初めて参加！この歳になり素敵な仲間と出会い、数多くの経験をして、技能を身に付けることができました。スカウト教育の基本に忠実に活動することでスカウト自らが成長していくと、明るく熱心に指導して下さった所員さんには感謝しかありません。研修所を終え、今まで自分の子どもがお世話になった分、恩返しができたらと指導者として頑張っていこうという気持ちでいます。

まだまだ始まったばかりのカブ隊隊長！ヘマばかりですが、持ち前の明るさと笑顔で精一杯やっています。そしていつか、スカウトにあの時の隊長の言っていたことってこのことか！と、気づいてもらえるような、そんな関りをして、スカウトの成長の過程に影響できたらと思っています。



カブ隊くまさん



気をつけて！

うまく張れたかな？



いつも元気だっ! ビーバーだより

ビーバースカウトに入隊したよ

三島地区 三島第3団ビーバー隊 葛城 聖輝

ぼくは、小学1年生です。8月からビーバースカウトに入りました。虫とり、プール、ビーバーまつり、ゆみや、水あそび、どうくつたんけん、やきいもなどをやりました。とくに、たのしかったのは、「どうくつたんけん」と「やきいも」です。

「どうくつたんけん」はふじ山のちかくまで、ほいくえんバスにのっていきました。バスの中ではおしゃべりをしてはダメだったけれど、のれたことがとてもうれしかったです。どうくつは、まっくらでひんやりしていて、がいこつができてそうのでキドキこわかったけど、たのしかったです。

やきいものとき、ふくちょうが火をおこしてくれたときは、びっくりしました!すごいとおもいました。さつまいもはきれいにあらって、しんぶんしとアルミホイルでまいてからやきました。やきいもは、ホクホクしていてあまくておいしかったです。いつか、たいちょう、ふくちょう、みんなとキャンプへいくのが、とてもたのしみです。



カブさんとミニうんどう会

島田地区 吉田第2団 ビーバー隊 榎田 湊

11月8日、カブさんといっしょにミニうんどう会をしました。

さいしょにくつとばしをしました。くつをゆるくはいて、いきおいよくけると、とてもとおくまでとびました。ぼくは



1いになれたのでとてもうれしかったです。つぎに玉入れをしました。1回目はカブさんにまけてしまったけど、2回目は玉がたくさん入ってかてました。うれしかったです。

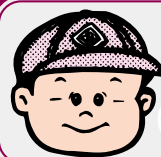
さい後にパンくいきょうそうをしました。ビーバーは、ジャンプしてパンをとるルールでしたが、むずかしかったです。ぼくは、くつとばしが一ばん楽しかったです。1いになれたので、おかしがついたネックレスをもらいました。家にかえて、妹といっしょにたべました。弟はまだ小さいのでたべられません。弟が大きくなったら、弟にもあげたいです。うんどう会で、カブさんとなかよくなれたのがよかったです。こんどはボーイさんともうんどう会をしてみたいです。

ザリガニつり

富士宮地区 富士宮第21団ビーバー隊 永田 仁子

わたしは7月24日にビーバーたいのなかまと、ふじしの「うきしまがはら自ぜん公園」に行ってザリガニつりをしました。

きょ年の秋に行った時はぜんぜんつれなかったの、「今年はずっといにつるぞ!」という気持ちで、楽しみにしていました。さおをもって水の中をよく見るとザリガニが見えたので、スルメをそっと入れました。思ったよりもすぐにザリガニがスルメをつかんだのであわててしまいました。お父さんの言うとおりにさおをゆっくりともち上げて、はじめてザリガニをつることができました。そのあとももうびきつれて、すごくうれしくて、楽しくて、大まん足のたいしゅう会でした。



カブつうしん CUB SCOUT

火起こし体験

富士地区 富士第11団カブ隊 山田 雄太



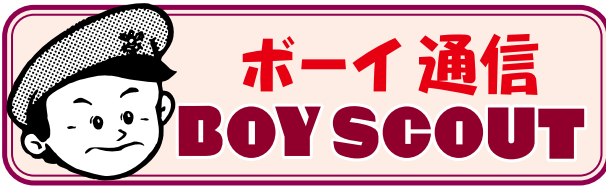
今日は、隊集会で火起こしと、焼き芋を作りました。

特に印象に残ったのは、火起こしです。理由は、仲間と協力して火を起こしたからです。

最初は、新聞紙からいきなり大きめの木につけてしまい、なかなか火が起きませんでした。ようやくついた時には、マッチを約1箱も使ってしまった。休けいで、焼き芋を食べました。あつあつとてもおいしかったです。

食べ終わったら隊長は、『火をつけるのは、新聞紙から小さい木へ・・・っていう風につけたほうがいいんじゃないかな』とアドバイスしてくれ、2回目についた時には、さっきの4分の1の量で起こせました。

これからは、今日教わった方法で、2回目に起こしたマッチの2分の1の本数で起こしたいと思いました。そして、後はいスカウト達にも教えたいなと思いました。



夏から秋の活動内容

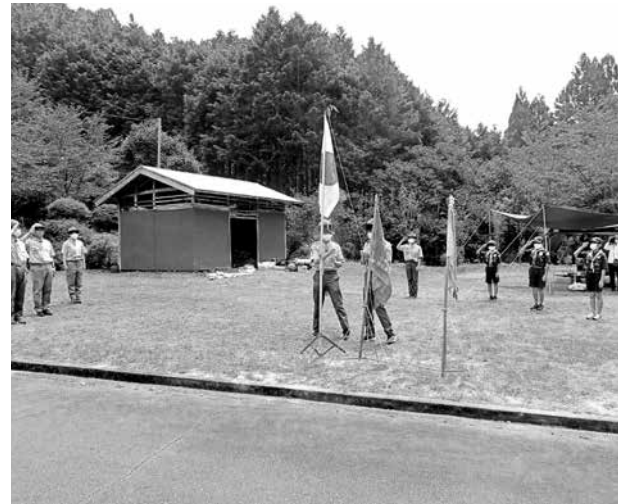
磐田地区 豊田2団

ボーイ隊 隊長 寒川 雅史

通年、BS隊は夏と秋キャンプで野営訓練をしてきていますが、昨今のコロナ禍にて、夏キャンプは個人調理で食事し、1人1テント泊を実施。秋からは初級スカウトの地図訓練で三密を避けた野外ハイクを実施しています。以下スカウトの感想です。

ボーイ隊 浦上 訊

一番心に残ったのがキャンプでの個人料理対決で、ベンチャーとボーイの対決で、僕はソーセージとほうれん草とベーコンのバター炒めに飯盒ご飯。結果は、全員おいしく僕は三位受賞。次回キャンプでも又料理対決したいです。



ボーイ隊 平野 朱梨

10月からコンパスを使った地図訓練を行い、コンパスは方位計測しか使えないと思っていましたが、地図と一緒に使うことで目的地の方向がわかったり、自分の位置がわかったりとても便利な道具であることを知りました。まだ慣れませんが次回訓練では正しく使えるよう頑張ります。

指導者だより

ベンチャースカウトフォーラム

ユースチーム静岡 三島地区 三島第5団 木村 直音

去る9月6日、県連ベンチャースカウトフォーラムの進行役として参加させて頂きました。ここ数年はユースチームにベンチャーフォーラムの運営奉仕を依頼して頂けるようになってきましたが、私自身はベンチャー時代にフォーラムの経験が無く不安な中での進行役でした。他に2名のフォーラム経験のある後輩ローパーに支えてもらいながら、計3人での奉仕参加となりました。運営奉仕自体は昨年参加させて頂いたので2回目となりました。昨年は全国フォーラム後のアフターフォーラムでしたが今回は全国フォーラムに向けてのフォーラムということで、発表や討議はもちろん最終的には採択事項をまとめなければならない、ということが1番の課題でした。

そしてもう一つ1番の難点だったのが、オンラインでの開催ということでした。参加スカウトも運営スタッフも全員が初めてのことです。参加スカウトの半数は会場、残りの半数は各自オンラインという形での進行となりました。最初は緊張もあってかテンポがずれながらの会話ではありましたが、30分も経つうちにオンラインでの会話ということを感じさせないようなスムーズな発表が続き、こちらのおぼつかない進行も助けてくれるようなフォーラムとなりました。まさにインターネットに慣れている世代だと感じました。今回選出された代表スカウトには是非この経験を生かして全国フォーラムに静岡県連の名前が轟くよう頑張ってください。

救急救護訓練

伊東地区 熱海第11団 進歩・国際委員会 大山 正晃

コロナによる感染予防の為、県内殆どの消防本部、広域消防組合では「普通救命講習会」開催の中止を余儀なくされています。技能章「救急章」はこの消防講習会もしくは日本赤十字社の救急法講習の履修を前提としている為、多くのスカウトが救急章取得を進級課目とする「準スカウト章」の目前に立ち止まらずを得ない状態にあり、今年度の準申請はとも少数となっています。ボーイスカウト救急法講習会細目、全教科をこれら講習会の履修をせずに進めるには心肺蘇生法とAED使用法を実演するシュミレーター、人体ダミー等が必要となるため熱海市消防本部にこれら機材の借使用を要請し12月6日(日)救急法講習会を開催しました。

技能章(救急章) 考査員である小林県連盟コミッショナーから指名を受けた小生が救急章指導員を務め、三島14団、伊東2、5団及び当熱海11団の16名のスカウトが受講、考査員から無事救急章の認定を受領しました。消防・日赤の講習履行を経ない救急法講習会は県連盟として初めてのケースとなると思います。受章スカウトの「準」に向けた前進を期待します。

湧水魂三魂

沼駿地区 清水町第1団 団委員長 平出 雅一

清水町第1団には理念とする『湧水魂三魂』があります。

1. 不屈の魂『どの様な障害も逆境も跳ね除け、湧きいずる魂』
2. 不断の魂『絶ゆることなく、途切れることなく、湧きいずる魂』
3. 清廉の魂『永遠(とわ)に濁らず、私欲を持たず、清』

らかであり続ける魂

これは私達のスカウトハウスの直ぐ傍にある「東洋一の柿田川湧水群」に、かつて実修所で聞いた「黒田官兵衛(如水円清)」の『水五訓』の思いを重ねて創作した理念です。

今の清水町第 1 団は、2000 年に「沼津」・「裾野」・「駿東」の 3 地区が合併して「沼駿地区」が誕生した際に、清水町内の 5 個団が合併して誕生した団です。合併当初は、スカウト達も、指導者達も、団内の人数が増え、専用のスカウトハウスも用意されたため、活気に溢れ、笑顔と希望に満ちていました。ところが年々退団者が増えてしまいました。同じ町内とは言え 5 個団もの合併となると 5 つの個性がある訳で、スカウティングに対する考え方や捉え方がどうにも噛み合わない。また指導者達の研修不足等もあり、スカウト活動のやり方も進め方も大きく異なっていました。その当時のボーイ隊スカウト達などは 5 人の指導者をそれぞれに「隊長」と呼び、スカウト達は隊指導者達とのコミュニケーションが取れなくなり、活動への欠席が多くなり退団者が激増して行きました。合併当初は約 130 名もの人数を抱えていたのに、2013 年には団登録者数が 50 名を割り込み、指導者の数がスカウトの数を上回ると言う逆転状況になってしまいました。その様な状況下の中で、ローバースカウトとベンチャースカウトが合同プロジェクトを立ち上げ『魅力的な団のシンボルを作る』ことにしました。そして「格好良くて目立つ、魅力的なオリジナルキャップを作ろう!」と言う結論に辿り着きました。キャップのデザインは美術大学出身のローバースカウトを中心に進められ、「柿田川湧水」から「湧水」の文字を取り、それと「町の鳥」である「カワセミ」を、アレンジしてデザインすることにしました。そこにローバー隊幹事長からの発案で「水五訓」にちなんだ『湧水魂』が決定しました。その後スカウト達からの要望もあり、様々なバージョンのキャップを作製してみました。しかしローバー隊とカブ隊は急速に衰え、隊指導者がいなくなり、殆どの指導者が団委員だけとなってしまいました。また団もスカウト募集を全く行わなくなり、今現在はローバー隊 1 個隊だけとなってしまいました。現在は小学校



5 年生のみにターゲットを絞り、募集活動を行っています。何れにしても、ボーイ隊の復活が急がれます。果たして在庫の団キャップは捌けるのか。残された時間はローバースカウト達が全員卒業してしまうまでの僅かな時間だけです。



コロナ禍とスカウト活動

清水地区 清水第 13 団 ボーイ隊 隊長 杉 敏彦

コロナ禍の中一般には、公私を問わずに web 会議など PC 機器を使用してのリモートの良さ悪しを肌身に感じ、今後の来るべき非コロナ時分にはリモートを積極的に選択肢として捉え、活動をより広げ深められると目論んでいる方も少なからずいらっしゃると思います。

しかし過ぎ去った非コロナ時分と異なるハウツー等が求められるその難易度が最も高いものの一つが、ボーイスカウト

活動ではないでしょうか。

より良い屋外スカウト活動を行うためには備え即ち屋内活動が基本にて、そこにリモートを取り込むハードルがかなり高く、臥薪嘗胆とばかりに今は耐え忍ぶ『おしん』みたいな心中なのではと勝手ながら察しているのですが、皆様いかがでしょうか? でも私は、「耐え忍んで夜明けを待ち今後来るべき時に人と人のリアルな対面をより活かすぞ」と志をあらたに持つだけでも十分なのではと考えています。今、リアル対面の重要さをみんなが痛感し渴望しています。そしてこのリアルな対面経験を多感な若年時により良く提供できる組織・人材・歴史・志を最も有しているのが、スカウト活動なのではないでしょうか。活動単位を団ではなく地区として行い PR をうまく図れば、スカウト人数は減れども今後のスカウト活動は大いなるポテンシャルを秘めていると考えています。



コロナ禍でのキャンプ

浜松地区 浜松第 14 団 カブ隊 副長 鈴木 則子

9 月 19 日から 21 日まで、当隊は太田山野営場にて 2 泊 3 日のキャンプを行いました。今年のキャンプは、コロナ禍の中、例年以上に安全に配慮しての実施となりました。特に注意したのが食事です。調理前の手洗い、消毒の徹底やマスク着用。各自がインスタント食品や缶詰を使って自分の食事を用意し、食べる時も対面にならないなど、できるだけ感染リスクを下げる方法を考えました。

そんな中でも、ボーイスカウトらしい活動をと考え、アルミ缶クッキングと、ポリ袋クッキングをやりました。アルミ缶クッキングでは、350ml のアルミ缶を 2 つ用意し、1 つを釜に、もう一方をコンロとして利用します。釜にする方の缶は、缶切りでフタを切り落とすのですが、普段の生活で缶切りを使う機会のないスカウト達は悪戦苦闘です。リーダーや保護者に手伝ってもらい、なんとか釜は完成。燃料にする牛乳パックを細長く切ったら準備完了です。お釜にお米と水を入れ、アルミホイルでフタをして炊飯開始。火が消えないように、燃料を足しながら扇子などで風を送り続けます。みんな、美味しいご飯の為に一生懸命です。ポリ袋クッキングで豚汁も作り、夕食の完成です。スカウト達は美味しそうに食べて

いました。その他の活動は、ハイキング、テント設営訓練、川遊びなど、楽しいキャンプになりました。

コロナウィルスが収束するまでは、まだまだ制限の多い活動になりますが、そんな中でも、安全に配慮しながら楽しいプログラムを考えていきたいと思っています。



ボーイスカウト講習会605期

島田開催報告



令和2年9月27日、新東名島田金谷インター近くの島田市金谷北支所にて、「ボーイスカウト講習会第605期」が開催されました。

主任講師に山崎敏弘日本連盟副リーダートレーナーを迎え、参加者は21名となりました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大が心配されることから定型訓練は中止・延期され、講習会としては初めての開催でした。対策については、三密を考慮して参加者の整列・机の配置等の距離を確保、室内での定期的な換気、消毒等の対応などをおこないました。セッション2の愉快的ハイキングでは、お茶とSLの街「金谷」を楽しく体験してもらう想定で行われ、駅員に仮装したスタッフが盛り上げ役となりました。突然の地震発生に驚かされましたが、被害もなく思い出深い1日となりました。

清水地区 わくわく自然体験あそび

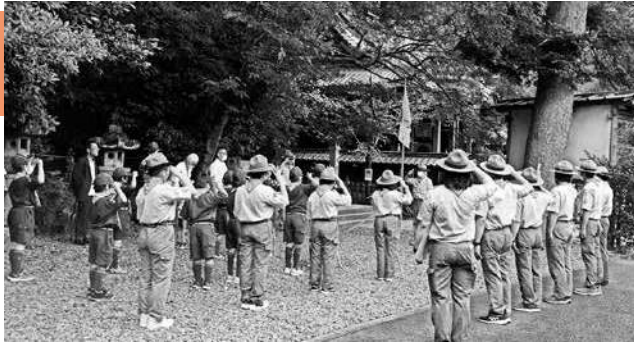


◆日時11月8日◆場所:清水区船越堤公園

清水地区組織拡充広報委員長 濱田 豊

「ふなこしの森をたんけんしよう」のテーマにわくわく自然体験あそびを行いました。

一般参加家族23組60名とスカウトでスタンプラリー(段ボールキャタピラ、暗夜行路、キムス、紙飛行機作り)と設問3問を午前中に行い、昼食後に紙皿でフリスビーを作り飛ばしました。参加者は秋の公園内の自然を観察しながら各ポイントで体や頭を使い、ボーイスカウト活動を楽しんで頂きました。



『何とか70周年!』

静岡第7団団委員長 **山下 芳寛**

9月20日静岡浅間神社において創団70周年記念事業としてご祈祷をしていただきました。70年という歴史を誇る当団ですが実際には何回か廃団の危機に直面しました。

30年ほど前にはスカウト・リーダーの不足のため友好団の静岡第22団にスカウトをお預けしたりリーダーを派遣していただいたりし窮地を逃れ、その後は登録者数が100名を超える団になったこともありました。しかしまた近年スカウト・リーダーが減少し廃団というところまで来てしまいましたが、今度は友好団である静岡第35団からの力添えにより再度危機を乗り越えることができました。

まだ復活という言葉には程遠い状況ですがこれからも『やったぜ! 80周年』といえるように頑張りたいと思います。

最後に今まで団を支えてくれた保護者・団委員・リーダー・友好団の方とこれから静岡第7団を作っていくてくれるすべての方々に心からお礼申し上げます。



おめでとう!! 17名の仲間が友情章を授与されました。

「友情章」は、君の友達に「スカウトになろうよ!」と言って、友達がスカウトに入るともらえる章です。

記念品はネームプレートがもらえるよ。次は君が友達を紹介して「友情章」をゲットしよう!

令和2年10月度「友情章」顕彰者名簿

組織拡充・広報委員会

氏名	地区	所属	氏名	地区	所属
高田 理帆	静岡	静岡第27団 BVS隊	関谷 匠真	三島	大仁第1団 BVS隊
勝山 芽衣	清水	清水第19団 C S隊	中村 理人	浜松東	浜松第30団 C S隊
大槻 和叶	清水	清水第19団 C S隊	平松 大空	浜松東	浜松第30団 C S隊
鈴木 貫太	伊東	伊東第5団 C S隊	平松 優空	浜松東	浜松第30団 B S隊
稲葉 夕陽	伊東	伊東第5団 C S隊	田中 咲月	富士宮	富士宮第22団 C S隊
久保田 琢巴	三島	大仁第1団 BVS隊	田中 明月	富士宮	富士宮第22団 C S隊
金指 漣音	三島	大仁第1団 BVS隊	鈴木 悠花	富士宮	富士宮第22団 C S隊
金指 凜音	三島	大仁第1団 BVS隊	土井 信乃	富士宮	富士宮第22団 C S隊
石橋 啓	三島	大仁第1団 BVS隊			



マスコミコーナー

マスコミ(新聞・雑誌)に掲載された「スカウト活動の記事」を紹介します。

各地区・団で、新聞又は雑誌などに掲載された記事がありましたらご応募下さい。詳しくは県連事務局まで

BS第6団が遊歩道整備

伊豆新聞 掲載

令和2年9月13日(日)

全国でも少数「スーパーカブ」

伊豆新聞 掲載

令和2年9月17日(金)

親子で野外活動楽しむ

静岡新聞 掲載

令和2年9月29日(火)

夜間ハイク 元気に完歩

静岡新聞 掲載

令和2年10月5日(月)

「細江悠久の森」環境整備へ協定

静岡新聞 掲載

令和2年10月13日(火)

ボーイスカウト 7団体交流深める

静岡新聞 掲載

令和2年11月10日(火)

「まちをな情報誌」

中日新聞 掲載

令和2年11月11日(水)

BS第6団が救急教育訓練

静岡新聞 掲載

令和2年12月7日(月)

教育文化スポーツ奨励賞

富士市広報

キャンプを疑似体験

富士ニュース 掲載

令和2年11月12日(木)

キャンプの基礎ゲームを通じた体験

静岡新聞 掲載

令和2年11月15日(日)

火おこし、調理ゲーム

伊豆日日新聞 掲載

令和2年11月23日(月)

おしらせコーナー

ボーイスカウト講習会
静岡第611期 沼駿

- 日 時:令和3年1月24日(日)
- 場 所:清水町社会福祉協議会
福祉センター
- 申込み:1月10日(日)まで
沼駿地区指導者養成委員長 必着

ボーイスカウト講習会
静岡第612期 浜松

- 日 時:令和3年2月14日(日)
- 場 所:浜松市立青少年の家
- 申込み:1月31日(日)まで
浜松地区進歩・指導者養成委員長 必着

ボーイスカウト講習会
静岡第613期 富士

- 日 時:令和3年3月14日(日)
- 場 所:富士北まちづくりセンター
- 申込み:2月28日(日)まで
富士地区事務長 必着

ボーイスカウト講習会
静岡第614期 静岡

- 日 時:令和3年3月14日(日)
- 場 所:静岡県青少年会館
- 申込み:2月28日(日)まで
静岡地区事務長 必着

日本連盟トレーナー
研究集会

- 日 時:令和3年2月7日(日)
- 場 所:オンライン会議
配信場所/静岡県青少年会館
- 申込み:1月18日(土)まで
県連盟事務局 必着

県トレーニングチーム
養成研集会

- 日 時:令和3年3月13日(土)~14日(日)
- 場 所:静岡県青少年会館
- 申込み:2月27日(土)まで
県連盟事務局 必着

ボーイスカウトへの
お問い合わせ・入隊希望は

ボーイスカウト静岡県連盟事務局
(☎054-255-6185)までご連絡下さい

ホームページ <http://bs-shizuoka.com>

Facebook <https://www.facebook.com/ShizuokaScoutCouncil/>もご覧下さい。

お詫び

※たちばな161号記事の中で氏名の誤記がありました。謹んでお詫び申し上げます。以下の通り訂正させていただきます。

12頁/カブ通信 掛川・袋井地区 袋井第4団カブ隊 (誤)門間耕ノ助 ⇒ (正)門名耕ノ佑

編集日記

コロナ禍ではありますが本年度も恒例となりました『写真コンテスト』を開催致します。皆様からの躍動感溢れる写真を募集しております。また本年度も各団や隊で制作した『募集チラシ』のコンテストも併せて開催致します。詳細につきましては県連事務局までお問合せ下さい。多くの応募をお待ちしております。

広報「たちばな」編集部 杉山文朗

広 報 “たちばな” 2021年1月
発 行 所 一般社団法人 日本ボーイスカウト静岡県連盟
〒420-0068 静岡県静岡市葵区田町 1-70-1
県青少年会館内
TEL054-255-6185 FAX054-255-6186
<http://bs-shizuoka.com>
編集責任者 組織拡充・広報委員長 川島 一郎
印 刷 三富印刷株式会社
静岡県浜松市東区上新屋町 30-1 TEL053-467-4678
発 行 部 数 4,250 部